



## 若林とこの 県議会 レポート

### 子宮頸がんワクチン予防接種

#### 詳細な健康調査と 適切な情報提供を求めます



<http://twakabayashi.kgnet.gr.jp/>

子宮頸がんワクチン接種については、今年4月1日より予防接種法に基づく定期予防接種となったものの、同ワクチンとの因果関係を否定できない持続的な疼痛が特異的に見られたことから、6月14日付け厚生労働省の勧告により、自治体においては、接種の積極的勧奨は行われていない状況です。

この間、全国各地で被害者の会の設立が進んでおり、重篤なケースも報告されています。神奈川県においては、医療機関からの副反応報告及び保護者からの報告を合わせて11月末現在で25人の報告がされていますが、国への報告症例以外にも副反応と疑われる症例が出ています。副反応の遅発性を考慮すると重篤な症例がさらに増える可能性も否定できません。

接種勧奨の一時中止の通知以降、接種者は大幅に減っているものの、該当年齢の女子を持つ家庭からは接種したことへの不安の声を聞くことも少なくありません。副反応をごく一部の出来事として看過するには情報が少なく、適切な相談の窓口の体制も十分とはいえません。

文部科学省が7月末をめどに全国の国・公・私立中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校における接

種生徒の調査を実施しましたが、内容は30日以上連続した欠席、または断続的な欠席のあった生徒数の把握などに留まっています。

鎌倉市や大和市では子宮頸がんワクチン接種者全員に向けて、ワクチン接種後の体調の変化に関する状況調査を実施しており、茅ヶ崎市も12月上旬に同様の調査を実施するとしています。11月末には、全国市議会議長会評議員会において、要望書「HPVワクチンの接種を一時中止し、重篤な副反応の追跡調査と被害者救済を求めることについて」が採択され政府に提出されています。

県としても、これらの動きを捉え、県下市町村において、子宮頸がんワクチン接種者全員に向けた統一調査を実施することが必要です。また、国に対しても、同様の調査を実施することや、副反応に対する治療体制の相談機関の充実を求めるべきです。12月議会では、質問趣意書を提出し、早急な取組みを求めました。今後も、県内各地の地域ネットと連携し政策アクションに取り組めます。



11月9日、山下公園で、東日本大震災・復興支援まつりが開催されました。被災地の現状や、地域の再生に尽力されている生産者、市民団体の皆さんの活動を伺い、復興・脱原発にむけた思いを新たにしました。藤野電力に協力いただいたMINI太陽光パネル作成ワークショップから広がった太陽光パネルも「市民発電所」として大集合、あざみ野ぶんぶんプロジェクトの皆さんも参加され、心ひとつにまつりを楽しみました。

東日本大震災・復興支援まつり  
震災の経験と教訓を  
風化させることなく  
地域でまちづくりを進めます

#### 神奈川ネットは、地域政党です。

1984年に青葉区(旧緑区)で、カンパとボランティアの選挙で最初の議員を誕生させて以来、議員は2期8年で交代しながら生活者の視点で発言し、市政・県政の改革に取り組んでいます。

あなたのご意見をお寄せください  
FAX: 045 - 989 - 3051



- W.Coぷろ3、TreeSeed (宮城県)
- NPO法人ザ・ピープル (福島県)
- NPO法人子ども達に未来をin湘南
- NPO法人ぐるっと (福島県)
- 公益財団共生地域創造財団 (宮城県、福島県)
- 生活クラブふくしま

\*売り上げの一部はおまつりの実行委員会を通じ以下の団体に寄付されます。